事業の概況

令和４年度の経済環境は、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着きを見せ、経済活動に持ち直しの動きが出た一方、世界的には急激なインフレとその抑制のための金融引き締めの動きが強まるなど、目まぐるしく変化しました。

今後は、日本銀行の新たな総裁による金融政策の舵取りが、マーケットや実体経済に与える影響について注視していく必要があります。

このような環境の中、当金庫はお客様の利便性向上、コンサルティング機能の強化に取組んでまいりました。また、一方で店舗の見直しや業務運営の見直しなど効率化を進めてまいりました。

その結果、令和４年度末には、本業の収益を示すコア業務純益は前年度比5.8%増加の５２億円、当期純利益は、前年度比12.5%減少の２９億円となりました。

当金庫は、お取引先への支援力強化を取組課題に掲げ、お取引先が抱える様々な経営課題の解決に取組んでおります。令和４年度においても、原材料価格の高騰をはじめとした様々な資金ニーズに対し、迅速に対応するとともに、「事業再構築補助金」をはじめ各種補助金の申請や人材紹介、販路拡大、事業承継などの経営課題に対し、外部機関とも連携し、きめ細やかなサポートを行ってまいりました。

店舗については、昨年６月に大曽根支店を新築移転し、窓口業務においては、お客さまの利便性向上と業務の効率化を目的とした「窓口支援システム」の全店導入が完了いたしました。また、ホームページやせとしんアプリからいつでも予約可能な「来店予約」「相談会・セミナー予約」を開始いたしました。

地域貢献活動については、当金庫創立８０周年事業の一環として、瀬戸市をはじめとする当金庫営業エリア内の11の自治体と、地元の２つの医療機関に対し寄付を行いました。

今後も、「お取引先の繁栄」と「地域の皆さまの豊かな暮らしの実現」「地域社会の発展」に貢献してまいります。

主要な経営指標の推移

		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
業務純益	百万円	2,978	3,450	3,456	4,852	5,079
コア業務純益	百万円	2,894	2,928	3,445	4,961	5,253
経常収益	百万円	23,634	23,772	21,227	22,020	21,636
経常利益	百万円	2,564	2,719	3,218	4,710	3,828
当期純利益	百万円	2,251	1,840	3,061	3,317	2,900
出資総額	百万円	1,195	1,200	1,209	1,209	1,209
出資総口数	千口	2,390	2,400	2,419	2,419	2,418
純資産額	百万円	129,115	120,610	129,532	124,228	112,452
総資産額	百万円	2,378,400	2,380,374	2,514,070	2,570,838	2,571,055
預金積金残高	百万円	2,101,099	2,097,386	2,132,160	2,161,530	2,182,786
貸出金残高	百万円	976,676	1,005,989	1,081,458	1,098,367	1,125,715
有価証券残高	百万円	817,756	750,622	780,172	888,333	891,760
単体自己資本比率	%	13.27	12.44	12.96	12.48	12.28
出資に対する配当金（出資１口当たり）	円	20	20	20	20	25
役員数	人	14	14	15	14	15
うち常勤役員数	人	12	12	13	12	13
職員数	人	1,269	1,247	1,255	1,236	1,196
会員数	人	60,370	60,872	61,970	61,370	60,460

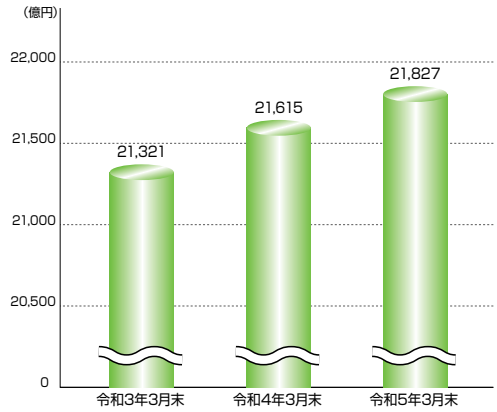
（注）単体自己資本比率は、自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第８９条第１項において準用する銀行法第１４条の２の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成１８年金融庁告示第２１号)」に基づいて算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。

※ 2019年５月１日に元号が「令和」に改められたことに伴い、2019年度全体を通じて「令和元年度」と表記します。

令和4年度の実績

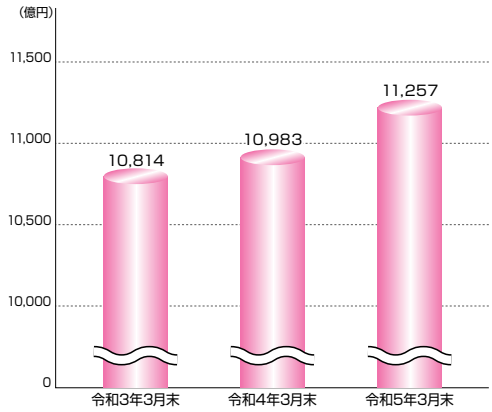
●預積金の実績

地域の皆さまからのご支持により手堅く推移し、令和５年３月末の預積金残高は、２兆1,827億円（前年度末比212億円、0.9%増加）となりました。



●貸出金の実績

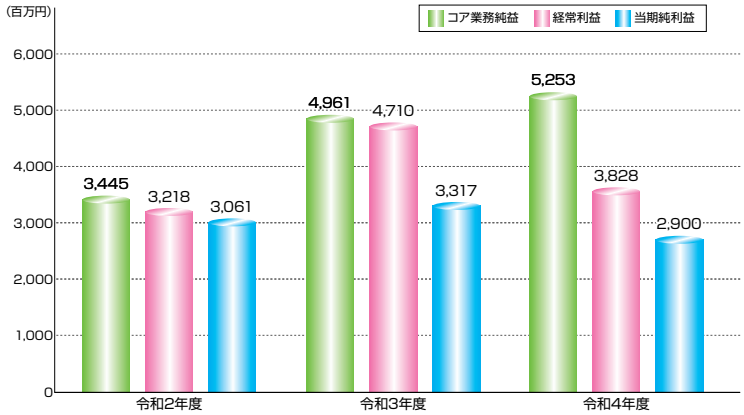
地域の皆さまの資金ニーズに積極的に対応した結果、令和５年３月末の貸出金残高は、１兆1,257億円（前年度末比273億円、2.4%増加）となりました。



●損益の状況

貸出金残高は増加するも利回りの低下により貸出金利息が減少するなか、収益性を重視した余資運用や預金利息の減少などから資金利益は増加。また、預金保険料などの経費が減少したことからコア業務純益は前年対比5.8%増加の52億53百万円となりました。

市場環境が持ち直したことから有価証券関係損益は改善したものの、与信関係の引当金を積み増ししたことから経常利益は前年対比で18.7%減少の38億28百万円、当期純利益は前年対比12.5%減少の29億円となりました。



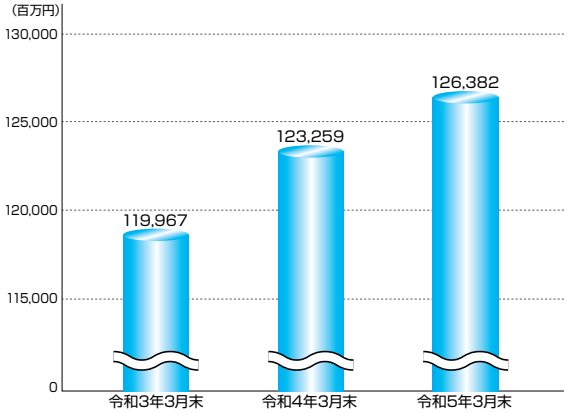
※コア業務純益とは、業務純益から一時的な変動要因（一般貸倒引当金や国債等債券関係損益）の影響を除いたものであり、金融機関の基本業務による収益力を表します。

●自己資本（単体）

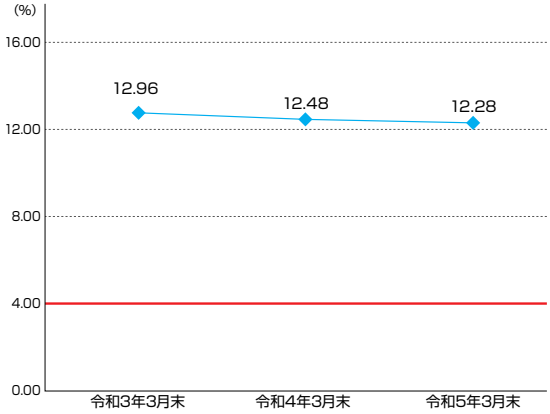
「貸出金の増加」や、引き続き「収益性を考慮した余資運用」に努めたことから、令和５年３月末の当金庫の自己資本比率は12.28%となりました。

同比率は、国内基準の4%を大きく上回っており、問題なく安心してお取引いただける水準を維持しております。

●自己資本額の推移



●自己資本比率の推移



第12次中期経営計画 アクションプログラム
（令和5年4月～令和8年3月）

ビジョン

「地域とともに」
～地域・お取引先・当金庫「三方よし」の実現～

地域　お取引先
三方よし
当金庫(職員)
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

基本戦略・重点施策

取組テーマ　**頼りにされる信用金庫**

基本戦略1 課題解決への取組み

- 本業支援、伴走支援の推進
- SDGs、脱炭素に向けた取組支援
- デジタル技術の活用
- 商品、サービスの充実
- 地域創生の推進
- お客さま本位の業務運営の推進

「コンサルティング」「サポート」「アフターフォロー」の更なる強化

基本戦略2 経営基盤の強化

- 収益力の強化
- DXの推進による業務改革
- 生産性向上（業務プロセスの最適化）
- 組織の機能強化
（営業体制・店舗、本部と営業店の連携）

基本戦略3 内部管理態勢の高度化

- リスク管理態勢の高度化
- 業務継続態勢の実効性向上
- サイバーセキュリティ対策の高度化
- マネー・ローンダリング対策の高度化
- コンプライアンスの徹底

基本戦略4 「人財」の育成・活用

- 働きやすく、やりがいのある職場づくり
- 専門性の高い人材の育成
- 女性、シニア職員の活躍推進
- 「企画力」「考動力」ある職員の育成
- 評価制度の見直し

「課題解決力の向上」に向けた取組み

SDGs宣言

せとしんSDGs宣言

表明日：令和元年12月3日

瀬戸信用金庫はSDGsへの取組みを通じて、持続可能な地域社会の実現に貢献いたします。

当金庫はこれまで永きにわたり「地域社会への貢献」などを経営の基本方針に掲げ、さまざまな事業活動に取組んできましたが、それらの取組みが、国連が提唱するSDGsの理念や目指すゴールに合致しており、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けた取組みを推進するため、令和元年12月に「せとしんSDGs宣言」を表明しました。

SDGsとは

SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」です。
「誰も置き去りにしない」という基本理念のもと、2030年までに達成を目指す世界共通の目標として、17のゴールと169のターゲットが定められています。この目標達成に向けて、政府だけでなく、自治体や企業等がそれぞれ協力・連携することが求められています。

1 貧困をなくそう
- ◆資産運用セミナーを通じた資産形成支援
- ◆つみたてNISA推進による資産形成支援

2 飢餓をゼロに
- ◆あいち・じもと農林漁業成長応援「食」と「農」の大商談会を通じた6次産業化支援

3 すべての人に健康と福祉を
- ◆役職員の就業時間中禁煙
- ◆金庫敷地内全面禁煙
- ◆各営業店へのAED（自動体外式除細動器）設置
- ◆ATM画面等への抗ウイルス・抗菌フィルムの導入

4 質の高い教育をみんなに
- ◆お客様向け各種セミナーの開催
- ◆すみれの苗の寄贈を通じた情操教育
- ◆せとしんすみれカップジュニアサッカー大会を通じた青少年の健全な育成
- ◆職場体験教室の実施
- ◆大学等との連携・協力
- ◆瀬戸特別支援学校の「全国ボッチャ選抜甲子園」出場支援
- ◆金融経済教育の実施

5 ジェンダー平等を実現しよう
- ◆多様な働き方に対応する人事制度の導入
- ◆あいち女性輝きカンパニーとしての認証
- ◆「あいち女性の活躍プロモーションリーダー」への就任

6 安全な水とトイレを世界中に
- ◆堀川の水質浄化活動への協賛

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- ◆環境配慮型店舗、環境車両の導入
- ◆ESG債への投資
- ◆LED照明の導入
- ◆「地域脱炭素融資促進利子補給事業」の指定金融機関に採択

8 働きがいも経済成長も
- ◆AICHI WISH企業認定
- ◆瀬戸市ライフ・ワーク・バランス推進宣言
- ◆名古屋市ワーク・ライフ・バランス推進企業
- ◆愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ◆創業塾の開講
- ◆知財活用ビジネスマッチング交流会による新事業支援
- ◆地域活性化サポートローンの取扱い
- ◆事業承継等の各種企業支援
- ◆キャッシュレス決済導入支援
- ◆せとしん資本性ローンの取扱い
- ◆若手陶芸作家等（ツクリテ）の定着支援
- ◆せとしん SDGs応援ローンの取扱い
- ◆SDGs型私募債、SDGs私募債（寄贈型）の引受け
- ◆尾張旭市地域の魅力商品活性化事業「旭色」の実施

10 人や国の不平等をなくそう
- ◆バリアフリー設備の整備
- ◆認知症サポーターの養成
- ◆あいち認知症パートナー企業
- ◆赤い羽根募金や募金機能付き自動販売機の設置による共同募金への協力
- ◆電話リレーサービスへの対応

11 住み続けられるまちづくりを
- ◆地公体の地域見守り活動への協力
- ◆地域行事への積極的な参加
- ◆瀬戸市災害時協力事業所への認定
- ◆瀬戸信用金庫アートギャラリーの開館
- ◆（公財）瀬戸信用金庫地域振興協力基金による助成
- ◆総合グラウンドの市民への開放
- ◆旧山繁商店の保存・活用による歴史・文化を核とした新たなまちづくり

12 つくる責任つかう責任
- ◆再生トナーの利用
- ◆エコキャップ回収運動

13 気候変動に具体的な対策を
- ◆クールビズの実施

14 海の豊かさを守ろう
- ◆プラスチックごみ削減への取組み（贈答品用レジ袋の廃止など）

15 陸の豊かさも守ろう
- ◆緑の募金への協力
- ◆ペーパーレス化の推進
- ◆生ごみから堆肥を作り地域へ無償提供

16 平和と公正をすべての人に
- ◆マネロン・テロ資金供与対策の高度化
- ◆特殊詐欺撲滅に向けた取組みの強化
- ◆コンプライアンスの徹底

17 パートナーシップで目標を達成しよう
- ◆地公体との包括協定・連携による地域創生
- ◆商工会議所等支援機関との連携による企業支援
- ◆「愛知県SDGs登録制度」に登録

（令和5年4月1日 現在）

©GISPRI
みんなの環境活動を応援しています